

「語り合い(対話)」が生み出す、迫力のある道徳授業づくり

伊藤 さゆり・岡田 幸博（愛知県あま市立七宝北中学校）

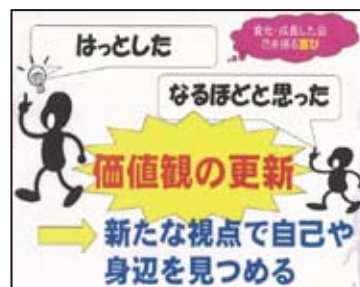
1 中学校現場での苦惱

- (1)分かっている（と思っている）ことを問われる白々しさ
- (2)教えたい（気づかせたい）あまり話しすぎる教師
- (3)生徒が予想できてしまう授業展開と発問構成

2 「道徳の時間」を活性化するための鍵

- ・「生徒の発言」から学びを深めていく授業展開を工夫する
- ・心を育てるために「話す・聴く」活動を充実させる

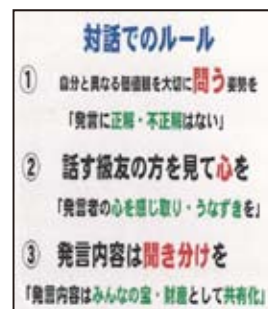
聴くことの心構え → 自らを問いただす覚悟で聴く
 話すことの心構え → 自己を問うつもりで言葉を発する



3 考えられる授業改善の工夫（2つの提案）

(1) 生徒の発言で学びを深めていく授業展開の工夫

- ① 生徒の発言で授業を創っていく（生徒の発言がもつ説得力）
- ② 中心発問1つで授業を組み立てる（語り合いの時間を確保）
- ③ そう考えた理由を問うことで生徒の道徳的価値観を引き出す
- ④ 生徒の発言を生かした板書（発言内容のキーワードに着目）

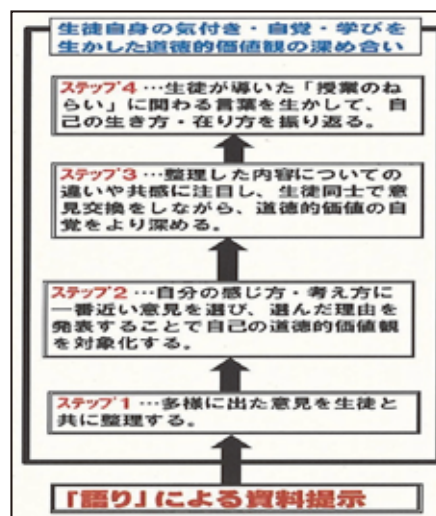


⑤ 「生徒の考えを生かし、生徒の言葉で学びを深めていく授業」の基本的な流れ

- ステップ1…生徒から出た意見を分類し、生徒とともにまとめていく（聴き合う雰囲気）
- ステップ2…自分の考えや気持ちに最も近い意見を選び、そう考えた理由を発表する
- ステップ3…「なるほど」と思った意見や疑問に思った意見を語り合う
- ステップ4…本時の学びの達成について喜び合う

(2) 「話すこと・聴くこと」が生み出すもの

- ①「話し合い、聴き合う」ことが心を耕していく
- ②「聴き合う」ことで共振していく一人一人の心
- ③「話す」ことで何が相手の心に伝わるのか（授業記録ではたった一行の発言でも）
- ④ 授業者も全身で生徒の発言を「聴く」（一人一人が大切にされている雰囲気が教室を）
- ⑤「心を動かされる・心が伝わってくる」（言葉がもつ温度・言葉の感触が人の心の中へ）



第 1 学年 A 組 道徳指導案

平成 24 年 2 月 23 日 (木) 第 4 限 指導者 伊藤さゆり

- 1 主題名 「父母を敬愛し、家族の絆を大切に思う心」【4-(6) 家族愛】
- 2 資料名 「三六五×十四回分のありがとう」: 出典「自分を見つめる・1年(あかつき)」
- 3 本時のねらい
それぞれの手紙から二人がどのような関係であったかを考えることを通して、家族の深い絆を理解し、感謝の心で家族に応えようとする気持ちを高める。

4 指導過程

段階	学習活動・発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
方 向 値 付 け	<p>1 家族のイメージについて語り合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> あなたにとって家族を色で表すと何色でしょうか？その理由も発表しましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジ色。包み込んでくれるようなイメージがあるから。 ・黄色。笑いがたえなくて、楽しいイメージがあるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族についてのイメージを想起させ、価値への方向付けと資料への導入をする。
価 値 の 追 求 把 握	<p>2 資料を読み、話し合う。</p> <p>① お母さんの手紙にはどんな気持ちが込められていると思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さえちゃん、ありがとう。お母さん、幸せだったよ。 ・さえちゃんのおかげでお母さんも力をもらい、がんばることができたよ。 ・これからはさえちゃんの思いとともにがんばっていくよ。 <p>② 佐江子さんはどんな思いを込めて手紙を書いたのだと思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん、本当にありがとう。感謝の気持ちでいっぱいだよ。 ・お母さんとここまでいっしょに歩んでこられて本当に幸せだったよ。 ・早く元気になって、またお母さんと一緒に暮らしたい。 <p>③ 「お母さんと佐江子さんの関係はどういうものだったと思いますか？」</p> <p>ア：言葉で伝えなくても、お互いの気持ちが分かり合える関係。 イ：心の支え。心が安心して帰っていくことができる居場所のような関係。 ウ：どんなことがあってもお互いが信じ合っている関係。 エ：かけがえのない、あたたかいものを感じ合っている関係。 オ：お互いがいるからがんばれる。励まし合い、支え合って生きている関係。 カ：お互いのためならどんな苦勞もいとわないという、心から大切にしよう関係。</p> <p>③' ア～カのうち自分の考えに一番近いのはどれですか？その理由も発表しましょう。</p> <p>ア：二人は常に相手のことを考えていると思うから。 イ：自分を受け入れてくれる安心感を互いにもっていると思うから。 ウ：二人には強い絆があるように思うから。 エ：お互いの存在が何ものにもかえがたい大切な存在だから。 オ：互いに相手のことを思い合っていて、心がつながっていると感じるから。</p> <p>③" 級友の意見で、気づいたことや参考になったことはありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はイ。「家族に反発することもあるけれど、許してくれると信じているから安心して毎日過ごすことができる。」はなるほどと思った。家族は自分にとって一番安心できる存在で、信じていることができるものだと感じた。 ・私はオ。「家族は何があっても味方になってくれる。」はなるほどと思った。信じてくれる家族がいるから、自分もがんばれるんだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①②では、母子が互いに思いやっている心に共感させることで、家族の存在のありがたさに気付かせたい。 ・③では、母と子が互いに思い合っている姿を通して親子の関係が信頼や絆で結ばれていることに気付かせたい。 ・③' では、母子の関係をを通して、家族の絆とはどのようなものかを考えさせたい。 ・③" では、家族の存在というのは自分にとってどういう存在であるかということを考えさせたい。
自 己 の 生 き 自 覚 方	<p>3 話し合ってきたことをもとに自分のこれまでの生活を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> みんなで話し合った「家族の絆」や「家族の愛情」について、身近で見たり体験したことを発表しましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・病気で寝たきりになってしまった家族を、笑顔で支える家族の姿をテレビで見た。今日の授業のように「いてくれるだけでありがとう」という家族のすばらしさを改めて感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3では、生徒が見つけた「家族の絆」という言葉を生かし、まずは授業者から価値が実現されている例を示す。
ま と め	<p>4 「心のノート」をもとに、教師の話でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」p112～115「家族だからこそ…」を読み、今日の授業で考えたことをまとめましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の温かさや、家族の絆のすばらしさに気づかせる。

5 評価

家族の深い絆を理解し、感謝の心で家族に応えようとする気持ちを高めることができる。

愛知県あま市立七宝北中学校 第1学年A組 道徳授業・授業記録

平成24年2月23日(木) 1年A組教室 授業者:伊藤さゆり教諭

T1「はい。じゃあ聞いてみたいと思うんだけど、今日の1個目の質問。みんなにとって『家族』とはどんな存在? こんな存在だって発言できる人は立ってください。」

★約1分間★(半数以上が立つ)

T2「はい、じゃあ聞いていきますよ。じゃあS1さん。」

S1「いつもいて当たり前なんだけど、でもないかと困るといって、なんか、いてほしい存在。」

T3「そうなんだ……。S2君。」

S2「えーっと、支えみたいなものです。」

T4「ああ、支えね。そっかそっか、いいねえ。S3さんは?」

S3「相談できたり話し合える。」

T5「相談できたり話し合えるね。S4さんは?」

S4「頼れる存在。」 T6「頼れる存在。頼り。S5君。」

S5「えっと、親しい。」 T7「? あ、もう1回言って?」

S5「親しい。えーっと、とても、なんか、接しやすいっていうか。」

T8「ああそっか。接しやすいね。」

S5「親しみやすい。」

T9「親しみやすいね。いいじゃない。そんな存在ね。S6さん。」

S6「一緒にいて安心できる存在。」

T10「安心できる存在。S7さんは?」

S7「自分のいろんなことを知っていてくれる。」

T11「自分の、いろんなことを知っていてくれる。そうだね。S8さんは?」

S8「えっと、うざいときもあるけど、必要だと思う。」

T12「必要。そうだね。S9君。」

S9「甘えられる存在。」

T13「思い合える存在。」 S9「いや、甘え。甘え。」

T14「甘え。甘えられる存在。あーそっか。S10さんは?」

S10「一番信頼できる。」

T15「ああ、一番信頼できる。S11さん。」

S11「裏切らない存在」

T16「裏切らない存在。おおー。S12君。」

S12「辛いときでも、嬉しいときでも、なんか、泣いて……何て言うんだろ、励まし合える。」

T17「励まし合える。うん。S13さん。」

S13「傍にいと自然と心が落ち着く存在。」

T18「あつ、自然と心が。そっか……。じゃそれぞれ、みんなね。自分の中で家族ってこんな存在だなあっていうのがあってね。よかったよね。で、今日みんなに読んでもらいたい。手紙を持ってきました。手紙。で、この手紙を書いた女の子は、ちょうどみんなと同じ年ぐらい。14歳。みんなは今13歳だよ。14歳の女の子。だけど、心臓にすごい重い病気を抱えています。で、これが3度目の手術。心臓をよくするため、元気になるため。その手術の前の日の夜に、お母さんに宛てて書いた手紙です。じゃ今から配ります。」

T19「いいかな。じゃあ手紙を読んでいくので、その様子を考えながら聞いてください。」

【佐江子さんの手紙を朗読】



※生徒の写真につき、画像を処理しています。(以下同)



お母さんへ

お母さん、いよいよ三日後には手術だね。手術を目の前にして、お母さんに言いたいことは、ただひとつ。「十四年間、私を育ててくれてありがとう」

心臓病を持って生まれた私を、十四年間、必死になって育ててくれてありがとう。

プールに入れないと、泣いて口惜しがった私を、ひざの上に乗せて、「世の中には、もっともっと大変な人がいるんだよ」と、何度も何度も言い聞かせてくれたお母さん。小学校の遠足では、「お母さんは、佐江子の足だよ」って言いながら、私をおぶって、一緒について来てくれたけど、私はとっても嫌だった。

ずっと、自転車で学校に送り迎えをしてもらっていた私も、大きくなって、自転車の後ろに乗れなくなったからと、車の免許までとったお母さん。四十一歳で、ちょっとおっちょこちょいのお母さんが、免許をとれたなんて、今でも信じられないよ。去年の五月の宿泊学習の時は、担任の先生や校長先生に、一生懸命頭を下げて、「どうか、一泊だけでも行かせてやって下さい」って頼んで回ってくれたっけ。

いつもお風呂から出て、お母さんと一緒に飲むアイス・コーヒーは、この世で一番おいしいコーヒーです。いろんなことをしゃべって、ガラガラ笑い合っって……。一日も早く退院して、また一緒にコーヒーを飲みたいな。

辛くて、涙が止まらない時、黙って私の手を握ってくれるお母さんの手は、とってもあったかい。辛い事が、雪のように、どんどん溶けてゆくみたい。

十四歳にもなって、甘ったれだと思われるかも知れないけれど、私は お母さんのあったかい手が大好きです。「おやすみ」と言い合っって、布団に入る時の、お母さんの口癖。「いい夢見なさい」「別に、好きで悪い夢を見るわけじゃないのに……。いい夢なんて、見ようと思って見られるものじゃない。変なの」って、ずっと思っていた。でも、入院する前の日の晩、ハッと思ったの。「いい夢見なさい」は、「悪い事ばかり考えて、メソメソしてないで、いい方へ、いい方へと考えなさい」「明日もいい事があるといいね」っていう事だったんだね。今、それに気付いて、私も、将来子供が生まれたら、夜、「いい夢見なさい」と言ってあげたいなと思います。

毎日、私のカバンを持って、教室まで送ってきくれるお母さん。朝、全然知らない生徒にでも、「お早うございます！」と大きい声で挨拶してさ。「そんな事したら、余計目立って恥ずかしいじゃない」って、すごくすごく嫌だったけど、今は違います。お母さんのそんな姿を見て育ったから、私はいつでも堂々と、胸を張って歩けるようになりました。私は病気だけど、いつも送り迎えをしてもらっているけど、別にいいじゃない。私は何にも悪い事はしていないんだから。そうだよ、お母さん？

だから、今の私はとっても幸せです。登校すると、いくらお母さんが脇にいたって、「佐江ちゃん、お早う！」と声をかけてくれる友達がいます。休み時間に、一緒にワイワイ騒いでくれる友達がいます。私のために、涙を流してくれる先生がいます。堂々と、しっかり胸を張って、明るく生きることで、私はこんなに幸せになれました。みんなみんな、お母さんのおかげです。ありがとう。

「お母さんなんか、私の気持ち、全然わかってない！」そう思ったことが、何度あっただろう。でも、ほんとはお母さん、私の気持ち分かりすぎるくらい、分かっているんだよね。お母さんも、私と同じくらいの辛さを味わっている、手術の日が決まってから、何となく落ち着かず、私に、「がんばれ！」を連発していたお母さんを見て、はっきりそう思いました。

私が辛くて、口惜しくて、泣きたくなる時お母さんもやっぱり、涙を流すまいと頑張っている。私が手術を目前にして、ちょっぴりドキドキしている時、お母さんは、私以上に頑張っているんだよね。小学校入学以来、初めて、親の付き添いなしで行けた中学一年生の遠足では、お母さんもすごく喜んで、うれし涙をポロポロ流していたっけね。「夫婦は一心同体」と、よく言うけれど、私達は親子で一心同体だよ。私はこの頃、病院で一人さみしくなると、「お母さんもさみしいんだ。がんばれ、がんばれ」って、自分に言い聞かせてるんだ。

私が辛い時は、お母さんも同じように辛い。だから私は、「手術、がんばってくるからね」ではなくて、「手術、頑張ろうね」と言いたいのです。私の手術、十五時間ぐらいかかるって聞いたけど、私は大丈夫だからね、この手術が済めば、私もみんなと同じ、健康な体になれるんだもん。私もしっかり頑張るから、お母さんも頑張っってね。

最後にもう一度。十四年間、笑顔と根性で私を育ててくれて、本当にありがとう。今、三六五×十四回分の「ありがとう」を言いたい気分です。これからも、もうしばらくは、お世話になるだろうけど、よろしくね。その代わりに、お母さんがおばあちゃんになったらたっぷりめんどう見るからね！

手術、がんばろうね。 佐江子

T20「これが佐江子さんの手紙です。じゃあ、そのプリント、机の中に入れて。」

★**ここまでで約15分**★

T21 「みんなが思うままでいいから。今のこの佐江ちゃんの手紙、聞いてて、この手紙の中には、佐江子さんの、どんな気持ちが込められているのでしょうか？こんな気持ちが込められている手紙だなあと言える人、立ってください。」

★約30秒待つ★

T22 「じゃあ聞いていきます。S14君。」

S14 「えっと、自分には、14年間育ててくれたので、ありがとうの…気持ちを、なんか、伝えたいと。」

T23 「手紙に気持ちが込められている『ありがとう！』。いいよ、座って。ありがとう。【板書】感謝ね。S15君。」

S15 「心配はあるかも。」 T24 「ん？」

S15 「え、手術に頼る心配はあるかも。」

T25 「心配はある。どんな気持ち？ 最後は？」 S15 「まあ…心配しないで。」

T26 「心配しなくていいぞ！【板書】心配しなくていいよ……。S16君。」

S16 「14年間の感謝の気持ち。」

T27 「感謝の気持ちか。【板書】感謝。【板書】S17君。」

S17 「『頑張るぞ』っていう決意の気持ち。」

T28 「ああ、『頑張るぞ』。【板書】頑張るぞ。【板書】そんな気持ちが込められている。S18さんは？」

S18 「えっと、今まで、お母さんが頑張ってくれたから、今度は自分が『頑張ろう』って思って、あと感謝の気持ちもあるし、（T「感謝」の文字を指す）お母さん頑張ったから、今度は、自分が頑張らないといけないんで、『心配しなくていいよ』（T「心配しなくていいよ」を指す）、それを手紙にしたと思う。」

T29 「はい。これもね。言ってくれたね。こんな気持ちが込められている。じゃあS19さん。」

S19 「感謝の気持ちもあると思うんですけど、あの、なんか、その佐江子さんが、自分がお母さんのところに生まれてきて『よかった』だと思います。」

T30 「そっか。【板書】お母さんの子どもでよかった。【板書】うん。S20さん。」

S20 「14年間のお母さんをやっとわかった上で、恩返しするために……この手術を、『頑張ろうね』って気持ち。」

T31 「ああ、『頑張ろうね』っていう決意と、恩返し。【板書】恩返しの気持ちもあるんだね。【板書】

T32 「はい。そんな気持ちが、この手紙には込められているのかな。ありがとう。他にはない？ いい？ こんな気持ちも込めてるんじゃないかなって、いいですか？ はい。じゃあ、『手術頑張ろうね』『お母さんありがとう』という佐江子の手紙をお母さんが、もらって読みました。で、お母さん、佐江ちゃんに宛てて、手紙を書きました。これはお母さんの書いた手紙です。みんな、目をつぶって聞いてください。」 【お母さんの手紙を朗読】

佐江子へ さえちゃん、おはよう。お盆が終わってしまったね。毎朝こうしておそうじするときあなたとはいつもおしゃべりしているつもりだけれどお盆の3日間は、ほんとうにさえちゃんがうちに戻ってきているようでお母さんは、いつからか八月が好きになりました。もう、何度も何回もお盆がめぐってきました。お母さんはあれから、たくさんの人の温かい心に支えられそしてさえちゃんの文に励まされ、毎日を生きています。さえちゃん。きっとあなたは知っていると思うけど あなたには三人の甥と二人の姪がいてみんなあなたのことが大好きです。さえちゃん。中学2年生のときのあなたの先生とクラスメートたちは、まいとし、まいとしそして今年も、2月7日にお墓参りに行ってくれました。その日は、あなたが15時間の手術をがんばった日ですね。そんな先生とお友だちに、お父さんもお母さんも心から感謝しています。さえちゃん。お盆が終わってしまったね。あなたが言ってくれた「ありがとう」いま、お母さんがさえちゃんに言います。ありがとう、佐江子。 母より

T33 「はい、じゃあ目を開けてください。……こう、書いてありました。手紙を聞いてもらって、いろいろと思うことがあると思うけど、それを是非、言ってほしいと思います。この、佐江ちゃんとお母さん。この二人、(黒板にフラッシュカード掲示) どんな親子の関係があったんだろうか。発言できる人は立ってください。」

★約1分間待つ(授業開始からここまでで25分)★

T34 「じゃあ、聞いていきます。友達の意見を聞いてね、思いついたら、静かに立ってください。じゃあ、S21君。」

S21 「支え合ってきた、と思います。」

T35 「うん。支え合ってきた。【板書】ありがとう。S22君。」

S22 「人生のパートナー。」

T36 「あつ、人生のパートナー。【板書】S23君。」

S23 「えっと、お互いに励まし合ってきた関係だと思います。」

T37 「うんうん、励まし合ってきた。【板書】S24君。」

S24 「誰にも断ち切ることができない関係。」

T38 「断ち切ることができない。【板書】ありがとう。S25君。」

S25 「お互いに感謝し合っている。」

T39 「あ、感謝し合っている。【板書】S26さん。」

S26 「思いやっている。」

T40 「あつ、思い合っている。思いやる? “や”? “あ” ?」

S26 「“や”。」

T41 「“や”。オッケー。【板書】 思いやる。S27君。」

S27 「お互いに信頼していると思います。」

T42 「信頼し合っている。【板書】S28さん。」

S28 「何も言わなくても、分かり合えてて、で、お互いに別々の場所にいても何か強いもので結ばれている関係です。」

T43 「強いもの……。【板書】S29さん。」

S29 「お互いを、必要としている。」

T44 「あつ、必要としている。お互いを必要としている。【板書】他、どうですか?」

T45 「【板書 (ア～ケ)の価値項目を指さして】じゃあ、今出たいろんな意見の中から自分の考えや気持ちに一番近いものを1つ選んでください。〈ク〉かもしれない〈ケ〉かもしれない、迷うかもしれないけど、1つ選んで。今の自分の気持ちとしてね、近いものを、どれか1つ選んでください。」

★約1分間待つ★

T46 「まだ時間ほしい人? いい? じゃあ、2人の関係ね。〈ア〉だと思ふ人、立って。(5人)はい、ありがとう。〈イ〉人生のパートナー。(3人)3人ね。〈ウ〉(5人)いいね。はい、座って。〈エ〉(3人)はい、ありがとう。〈オ〉。(0人)いいかな? はい。〈カ〉(0人)〈キ〉(1人)〈ク〉(11人)はい座って。〈ケ〉(3人)はい、ありがとう。」

S30 「先生、〈エ〉に立ち忘れたんで〈エ〉に入れてください。」

T47 「〈エ〉に入れてください。はい。オッケー、よし。じゃあ、これを選んだ理由や、付け足しとかだよ。言っ
てほしいんだけど、この理由がね、聞いてて本当に深いんだ…。みんなの考えている
ことが。うん。なので、どんなことでもいいので、これを選んだ理由をね、教えてください。じゃあ、〈ア〉
を選んでくれた5人の人。理由、言える? 5人の中で、これ選んだ理由言えるよって人。S31君は?」

S31 「……そういう体験があるから。」

T48 「うん。感じたことがあるんだね。はい。【板書 〈ア〉の意見を強調】S32さん。」



S32「佐江子は、お母さんが近くに来てくれたから、なんか、3回も手術頑張れたんだと思うし、次、3回目も頑張ろうと思えたんだと思うし、**お母さんは佐江子の存在自体が支え**で、そう、だから『一泊だけでもいいから行かせてやってくれ』とか普通の親ならやらなくてもいいことを、佐江子が喜ぶなら、って思ってたのかなって思ったから〈ア〉を選びました。」

T49「ああ、(うなずきながら)すごい、いいことが出たね。**存在自体。【板書「存在自体が」】**先生の心にも響きました。ありがとう。〈イ〉人生のパートナー。じゃあS33さん。」

S33「えっと、お母さんと佐江子は、えっと、他の子よりもいつも一緒にいて、お互いすごく分かり合っているから、いちばん一緒に人生の中でいた存在だと思ったから〈イ〉にしました。」

T50「**【板書〈イ〉の意見を強調+「分かり合って」】**はい、ありがとう。じゃあS34さん。」

S34「あえて、支え合ってきたとか励まし合ったとか、はっきり何をしたのかを言うんじゃないで、なんか、その、**生きてたこと自体が、人生のパートナー同士だった**っていうか、その、はっきり『何をした』とは分かんないけど、なんか、パートナーだったんだと思います。」

T51「はい。生きてたこと自体が。**【板書「生きててくれた」】**ありがとう。S35君。」

S35「つらいときも、楽しいときも、ずっと一緒にいたんで、『人生のパートナー』にしました。」

T52「うん。ありがとう。辛いときも……。 **【板書「つらい時も楽しい時も」】**はい、ありがとう。じゃあ〈ウ〉を選んでくれた人。理由言える人いますか。じゃあS36さん。」

S36「あの佐江子さんの手紙にもあったように、えっと、お母さんに365×14回分の『ありがとう』を伝えたかったし、お母さんも、今まで育ててきて、あの、生まれてきてくれたことも改めて伝えて、励まし合ってたと思いました。」

T53「ありがとう。 **【板書「三六五×十四回分のありがとう」】**はい、ありがとう。じゃあS37君。」

S37「えっと、お母さんも佐江子さんもあの手紙で、励まし合っていたので、〈ウ〉だと思います。」

T54「そうだね。 **【板書〈ウ〉の意見を強調】** S38君。」

S38「2人で頑張ってきたと思う。えっと、佐江子さんが手術するときも、お母さんが『頑張って』みたいなことを言って、で、お母さんと佐江子が……。言い直していいですか？(T「うん。いいよ。’) お母さんがつらくても、佐江子と一緒に頑張ってきて、佐江子も、つらいときもお母さんが励ましてくれて、2人で、それをなんか、繰り返すっていうか、何回も励まし合った仲だと思う。」

T55「ありがとう。頑張って言ってくれたね。 **【板書「お互いがんばって」】**はい。じゃあ〈エ〉。はい、ありがとう。4人とも立ってくれたね。じゃあS39君。」

S39「どんなトラブルとかがあっても、そんな簡単に断ち切れちゃあ親子って呼べない。」

T56「はい。親子。 **【板書〈エ〉の意見を強調+「親子」】**ね、はい。S40君。」

S40「この話には、お父さんとかが出てこなかったし、佐江子はずっとお母さんと一緒にいたっていうような感じで書かれてたんで、その絆みたいなのが、もう断ち切ることができないくらい強いものになってるかなって思いました。」

T57「はい。同感です。 **【板書「絆」】**絆ね。S41さん。」

S41「えっと、寿命とかは、まあ生きてるものすべてにかかってくるものだと思うんですけど、この心臓に病気があることによって、その命が十分に、こう十分に経ってから終わる前に命が絶えてしまうっていうその瀬戸際に立たされた状態で育ってきたので、その佐江子の限られた命のためにお母さんは尽くしたし、佐江子は自分の限られた命をお母さんのために尽くすっていう、お互いがお互いのことを深く考えるから、もうどんどん、こう『絆』が大きくなっていって、誰にも切れないものになるんじゃないかな、って思いました。」

T58「はあー、すごいね。うん。 **【板書「命」】**限りある命。命ある限り、だね。ありがとう。 ああ、ぐっと

くるなあ、みんな。うん。はい、じゃあ〈キ〉。S42君。」

S42「お互い相手のために頑張れたのは、それだけ強い信頼があったからで、【板書〈キ〉の意見を強調+「強い」】ある程度の普通の信頼じゃ、ただ頑張るだけなんですけど、このお母さんと佐江子は、【一生懸命相手のために何かをやった】んで、それだけすごい信頼があったんだと思います。」

T59「はい。ありがとう。【板書「一生懸命」】じゃあ〈ク〉。11人の人で、どうですか？ じゃあS43君。」

S43「えっと、佐江子さんは、あの、お母さんの子どもに生まれてよかったと思って、お母さんは、『この子が私の子でよかった』って思っていて、で、もう絶対に解きはてない？ 解き……えーっと、絶対に、ちぎれることのない糸で、なんか、結ばれているんじゃないかなって思いました。」

T60「いいこと言ったねえ。【板書〈ク〉の意見を強調+「絶対にちぎれない」】絶対にちぎれない。いいね。S44さん。」

S44「さっきのお母さんの手紙で、自分で想像したんですけど……（T「いいよ。」）佐江子さんは、その手術が終わってから、あの、亡くなってしまったと思うんですよ。で、それからお盆が来たりとか、何年か経ってからお母さんが手紙を書いて、【佐江子さんの存在自体はここにはないけど、何か、自分とつながっている気がした】と思います。」

T61「【板書〈ク〉の意見を強調+「何か」】最後の言葉いいね。何か、結ばれている。はい。ありがとう。じゃあ〈ケ〉。3人いるけどどうですか？ みんな立ってくれたね。じゃ、S45君どうぞ。」

S45「えっと、佐江子とお母さんは、2人とも、両方が必要と思ってたから、いろんな絆とか、なんか、絆とか信頼とかが生まれたんで、【板書〈ケ〉の意見を強調・「信頼」を赤で強調】だから、その2人が必要と思ってなかったら、2人ともが必要と思ってなかったら、たぶんアイスコーヒーとかも一緒に飲めないし、いろんなことも多分1人でやってたと思うんで、お互いが必要と思ってたと思います。」

T62「お互いがね。はい、ありがとう。S46さん。」

S46「えっと、私、あの自分のことになるんですけど……【偶然に、2月7日の次の日が、お父さんの誕生日で……！（涙で言葉が出ない）】」

T63「ありがとね。うん、ありがとう。大丈夫？」

S46「……私は、必要としたし、お母さんも佐江子も、そういうことを思ってたんじゃないかなって、思います……。」

T64「はい。ありがとう。【板書〈ケ〉の意見を強調、「必要」を赤で強調】一生懸命言ってくれたね。ありがとね。S47さん。」

S47「えっと、絶対に自分の娘が、死の瀬戸際なんて嫌だし、佐江子も自分が死ぬなんて嫌だと思ってたけど、お互いに必要としていたので、すべて乗り切れたんじゃないかと思いました。」

T65「ありがとう。【板書〈ケ〉の意見を強調】ありがとね。みんな、いっぱい考えて言ってくれて。これ見て、黒板。これ、メモもあるかもしれないけど。すごい。それぞれさ、こう思うことがあるかもしれないけど、声に出しにくいこともあるかもしれないけど……あと5分で授業が終わっちゃうんだけどさ、さっきS46さんがね、言ってくれたみたいに、こう、自分が今まで、そういうのを感じたことがあるかなあ、って思うんだけど。じゃあ最後の5分、聞いてて、よかったなっていうか、心に残ったなあとか、こうやって思ったなあっていうか、感想になっちゃうときもあると思うけど、そういうのがあったら是非、発言してほしいなって思うんだけど、どうですか。『誰々君の発言を聞いてこう思いました』っていうのがあれば、是非言ってもらいたいなって思うんだけど……うん、はい。ありがとう。じゃあ、S11さん。」

S48「S46さんの話で……（涙声）私も、お父さんが死んじゃったんですけど、ちょっと、思い出しちゃって……（T「ありがとね。」）っ、すみません。（T「いいよ、いいよ。うん。」）2歳のときだったんで、思い出とかは無いんですけど……やっぱり……お父さんに似てるところもあるって言われるんで……絆とかもあるかなっ

て、思いました。」

T66 「ありがとう。【板書「絆」を赤で強調】ありがとね。立派に言ってくれて。S49君。」

S49 「えっと、みんなの意見を聞いて、もっと家族を大事にしたいと思います。」

T67 「ありがとうございます。【板書「家族」を赤で強調】じゃあ、他どうですか？ うん、S50君どうぞ。」

S50 「S46さんのを聞いて、お父さんも、なんか心臓が……（T「うん。ありがとね。」）それを……（涙声）なので、お父さんに、今、生きてるんですけど……なので、生きててくれてよかったなあって思いました。」

T68 「ありがとう。【板書「親子」「命」「信頼」を赤で強調】じゃあみんな、もう授業終わっちゃうから、聞いてほしいんだけど……いろんなことを思ってね、涙を流している人もいると思うんだけど、それぞれがやっぱり（「家族」を指しながら）あるから、いろんなことがさ、あるじゃない、この中では。【板書「人生」を赤で強調】みんなは、生きてるからね。【板書「命」を強調】だね。みんながね、命ある限り、ずっと生きて、新しい家族ができてくかもしれないし、いろいろ生きてく中であるんですよ。考えてほしかったんです。もちろん今までそんなね、みんなね、人生でね（「人生」を指しながら）いろんな経験してるから、辛いこととか悲しいこととかはもちろん、あると思うんだけど、こういうときに心で考えて、なんか、生きてってほしいなあって。だって、これだもん。【板書「命」「絆」「家族」を強調】って、思ったんで、今日の授業をやりました。本当みんな、思ってることをね、いろんな子が言ってくれて、先生も、みんなにお礼を言います。ありがとう。じゃ、授業を終わります。」

中学校学習指導要領解説（道徳編）p59より抜粋

(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

人間は、過去から受け継がれてきた生命の流れの中で生きている。そこで、まず、自分が在るのは、祖父母や父母が在り、そのかけがえのない子どもとして深い愛情をもって育てられたからであることに気付かせることが大切である。そのことを通して、自分の成長を願い無私の愛情をもって育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の念を深めることが必要である。今日家庭を取り巻く状況も様々であり、その姿は一律でないが、その家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることが大切であるということの自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まってくる。そのため父母や祖父母の言動やしつけに反抗的になりがちである。ちょっとした忠告や叱責が、あたかも自分のすべてを否定するかのように思えて、反抗したい気持ちになる。しかも、かつてのような大家族の人間関係の中でしつけられ、喜怒哀楽を共にし、生活の苦勞を分かち合いながら、人間関係の機微を学んだり、家族の連帯を自覚したりする機会も少なくなってきた。

指導に当たっては、まず、この時期に、自分と家族とのかかわり、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解できるようにすることが大切である。その際、自分が家族の中でどのような立場にあるのか、家庭生活を営む上で、自分はどのような役割を果たせばよいのかを考え、家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくことが、自分の課題であることに気付くことができるようにすることが大切である。

研究の全体構想図

目指す生徒像

- ・自分の考え方や感じ方をもとに、自らが問いを発生しながら級友と語り合い、自分とは異なる考えに接する中で自己の考えを深められる生徒
- ・自らの道徳的価値観を主体的に育むことができる生徒
- ・社会と人のために主体的に考え行動できる生徒

高められた生徒の道徳的価値観

各教科・総合的な学習・特別活動との関連(補充・深化・統合)

行動として発揮する場の設定

家庭・地域との連携

ボランティア活動

- ・生徒会ボランティア
- ・学年学級ボランティア
- ・部活動ボランティア
- ・地域行事ボランティア

地域との連携

- ・地域人材の活用(ゲストティーチャー)
- ・校区美化活動
- ・地域行事との連携

情報公開・発信

- ・学校道徳通信
- ・学年道徳通信
- ・ホームページ
- ・道徳の授業公開

道徳的実践力を育む「道徳の時間」の創造

生徒自身の気づき・自覚・学びを生かした道徳的価値観の深め合い

ステップ4…生徒が導いた「授業のねらい」に関わる言葉を生かして、自己の生き方・在り方を振り返る。

ステップ3…整理した内容についての違いや共感に注目し、生徒同士で意見交換をしながら、道徳的価値の自覚をより深める。

ステップ2…自分の感じ方・考え方に一番近い意見を選び、選んだ理由を発表することで自己の道徳的価値観を対象化する。

ステップ1…多様に出た意見を生徒と共に整理する。

「語り」による資料提示

話し合い活動を中心に据えた学習展開の工夫

道徳的実践力

自己肯定感

道徳的価値の自覚

価値理解
人間理解
他者理解

話し合い活動(語り合い)

生徒自身の気づき・自覚・学びを生かした道徳的価値観の深め合い

激励的な言葉かけ

共感的な言葉かけ

支援的な言葉かけ

対話でのルール

- ① 自分と異なる価値観を大切に問う姿勢を
「発言に正解・不正解はない」
- ② 話す級友の方を見て心を
「発言者の心を感じ取り・うなずきを」
- ③ 発言内容は聞き分けを
「発言内容はみんなの宝・財産として共有化」

話し合い活動を支える教師支援の工夫

生徒の道徳的価値観